

夫婦の【世界と日本語交流活動】・35年間の歩み

一・《『日本語教材』の作成と寄贈》 平成元年～令和4年

【一】1989年3月～1997年3月まで8年間、「季刊誌『日本』」（30頁前後）を33号まで、計約73万冊、無料配布。国内の大学・日本語学校、中国を始め、タイ、インドネシア、韓国、台湾、フランス、イギリス、アメリカなど30数カ国・地域の大学に寄贈。

【二】1995年に「季刊誌『日本』」を基に、「日本語精読教材【日本】」（206頁）を作成、その後、2022年の『【日本】という国』まで、7回改訂、寄贈。

★ 2022年5月＝『【日本】という国』（ルビ付き・251頁）（朝日新聞出版）

海外、国内の大学、日本語学校、日本語教師、公立図書館などに、約2,100部寄贈。

◇『季刊誌【日本】』から『【日本】という国』まで、独自の日本語教材・約80万7千冊を寄贈。

【三】2016年以降～電子書籍・「日本語教材『【日本】という国』」を無料公開。

<http://www.nihonwosiru.jp/>（国際交流研究所のHP）

二・《『日本語作文コンクール』の開催・通算26回》 平成元年～令和5年

【一】1989年から1993年まで、「留学生対象の《日本語作文コンクール》」を、計5回主催。

応募総数＝3,121編。

【二】1993年から2014年まで、中国の大学生を

対象に《日本語作文コンクール》を、計16回主催。応募総数2万2,945編。

【三】「世界の日本語学習者」を対象にした《日本語作文コンクール》を主催。

◇2016年～2017年「第一回」（応募者数＝54カ国・地域から5,141編）

◇2018年～2019年「第二回」（応募者数＝62カ国・地域から6,793編）

◇2019年～2020年「第三回」（応募者数＝66カ国・地域から9,086編）

◇2020年～2021年「第四回」（応募者数＝75カ国・地域から9,022句）

◇2022年～2023年「第五回」（応募者数＝62カ国・地域から6,618編）

★通算26回の《日本語作文コンクール》の応募総数＝86カ国・地域の6万2,726編（句）

□・2022年9月＝「中国の大学生」"日本への思い"と"心の叫び"（34年の記録）を出版。

○ 2022年＝大森賞・「世界の日本語学習者『日本語作文コンクール』」（主催・笈川幸司先生）

○ 2022年＝大森杯「日本語教師・教育体験手記コンクール」（主催・日本橋報社）

（一）○2020年9月、《ユニークな『「日本文化」論』》を出版（朝日新聞出版）

留学生、中国の大学生・院生、世界の日本語学習者」を対象に行った24回の

《日本語作文コンクール》の入賞作文から選んだ「日本人に読んでもらいたい作文」112編

（二）○2021年7月、《『俳句』と日本語の夢』》を出版（朝日新聞出版）

※2020年～2021年の「第四回」＝「25回目の《日本語作文コンクール》」として、

「【俳句】コンテスト」を実施。入賞者102人の『「俳句」と「日本語の夢』」を収録

◇全国の高校、大学、図書館等へ＝（一）を約2,000部、（二）を約1,600部、寄贈。

三・《「日中友好」アンケート調査》→1999年～2015年まで4回

◇中国の大学生（日本語科）を対象に実施。各回、80～172大学の計3万9,225人から回答。

【大森和夫】1940年生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒。朝日新聞社（大分支局、山口支局、福岡総局、政治部、編集委員など）を1989年（平成元年）に退社、妻と国際交流研究所を開設。世界の日本語学習者との『日本語交流活動』を開始。

【大森弘子】1940年生まれ。京都女子短期大学家政学部卒。『日本語教材』各版の編集長。